



第45号
〈発行〉
日置地区
社会教育振興会
〈事務局〉
鹿児島教育
事務所

コロナ禍対応に苦心

社会教育振興会 総会は書面議決

新型コロナウイルスによる「緊急事態宣言」発令中のさなか、日置地区社会教育振興会理事会（5月8日）では、来たる総会（5月25日）の開催について協議が行われました。

最終的に理事会の方針と、会長（田畑誠一市長）の判断により、総会は書面議決とすることに決定しました。

地区内の社会教育関係団体や、学校、福祉、警察関係者等の会員31名の方々に、「書面表決書」を送付し、5月25日までに全ての会員から回答をいただきました。

その結果、令和元年度事業報告や決算、令和2年度事業計画案、予算案、新役員等の全ての議案が全員一致の賛成で可決されました。



理事会の様子

☆活動テーマ

青少年の健全育成及び生涯学習の実現を目指す社会教育関係者の役割はどうあればよいか。

☆本年度の主な努力点

生涯学習の充実

◎いもこじの発行（8・12・3月）

◎鹿児島地区社会教育委員会及び社会教育担当者研修会

◎日置地区公民館経営研究会

◎「子どもといっしょに読書の日」

◎「子ども読書の日」の取組

◎日置地区生涯学習推進大会

◎「地域学校協働活動」の推進

◎社会教育の充実

◎社会教育諸条件

の整備・充実

◎ふるさとを興

す保健・福祉

及び組織・教

育・食料・環境

学習大会

◎人権教育ブロッ

ク別指導者研修

会

◎青少年教育の充

実



辛坊治郎氏
昨年度の地区生涯学習推進大会

❖地区子ども会大会、指導者・育成者研修会

❖中央ブロックJ・L及び高校生クラブ等交流大会（屋久島）

❖かごしま地域塾の展開

◎家庭の教育力の向上

❖PTA活動の取組強化

❖地区PTA正副会長等研修会

❖県PTA研究委嘱公開

❖家庭教育支援員研修会

❖おやじの会の充実・支援

文化財保護の充実

◎文化財の継承・発展

❖文化財保護審議会委員及び文化財行政担当者等研修会【中止】

❖日置地区文化財担当者等研修会

◎文化財マップの配布（小学3年生）

◎伝統芸能伝承活動の促進

令和2年度新役員（敬称略）

会長 田畑 誠一（いちき串木野市長）

副会長 徳留 敏郎（鹿児島教育事務所長）

副会長 中木屋 豊（地区社会教育委員）

副会長 草野 勝徳（日置市PTA 連絡協議会長）

副会長 有村 孝（いちき串木野市教育長）

副会長 町田 達美（羽島中学校長）

副会長 草野 勝徳（日置市PTA 連絡協議会長）

副会長 有村 孝（いちき串木野市教育長）

副会長 町田 達美（羽島中学校長）

副会長 草野 勝徳（日置市PTA 連絡協議会長）

副会長 有村 孝（いちき串木野市教育長）

副会長 町田 達美（羽島中学校長）

副会長 草野 勝徳（日置市PTA 連絡協議会長）

副会長 有村 孝（いちき串木野市教育長）

副会長 町田 達美（羽島中学校長）

日和下駄

薩摩藩英国留学生に学ぶ

いちき串木野市教育委員会 教育長 有村 孝

今から百五十年あまり前、五代友厚をはじめとする若き留学生19名が渡欧した出発の地「羽島」は、近代日本の夜明け「黎明の地」です。この地に本市の長年の夢であった薩摩藩英国留学生記念館が建立され、これまで全国各地から16万人の参観者があります。記念館には当時の時代背景や留学生の生きざまを物語る数々の貴重な資料等が展示されています。留学生は広く世界を見聞し、帰国後は、語学、医学、化学、産業などあらゆる分野で活躍し、近代日本の礎を築きました。

羽島では、日本の近代化に貢献した留学生らの勇気と功績を称え、語り継ぐため「黎明祭」を平成元年から毎年4月に開催しています。次代を担う青少年に史実を体得させ、夢や希望を持たせ、ふるさと意識を育む絶好の機会となっています。

19名の若き留学生から本市の子どもたちが、何を学ぶか、何を学ばせるか。それは「夢と志をもつこと」「行動すること」「社会に貢献すること」の大切さだろうと思います。

薩摩藩英国留学生記念館



ひとが輝き 文化の薫る
世界に拓かれたまち

市内保育所へ(日置市)

市内保育所の子どもたちにも、保育所に通う子どもたち用



手作り布マスク使ってね

私たちが日置市地域女性連絡協議会は、地域に根差した社会貢献活動を日々実践しています。コロナウイルス感染症対策のために、手作りマスク千枚を作り、日置市を通して5月11日に、

各市地域女性連が手作りマスク寄贈 コロナ終息を願って

マスク作りは、各地の交流センターで行われ、三密を回避しながらの大変な作業となりました。布や糸も品薄状態となり、多くの会員の援助によって仕上げ

られ、丁寧に袋詰めされました。さらにこの手作りマスク運動が地域に広がり、高齢者へのマスクの寄贈も始まりました。地域住民の共助の活動であるマスク作りによって地域の絆が深まっています。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月上旬に市販のマスクが品薄状態となりました。学校再開を受けて市女性連では各学校へ手作りマスクを寄贈することとしました。4月末には、13地区の女性連会員の協力の協力により、市内の幼・小・中学校16校の約二千百枚ができあがりました。



生福地区女性部から生福小学校へ

イン・リーダー研修

いちき串木野市教育委員会

いちき串木野市では、市内の子ども会の会長を対象に、6月7日(日)、冠岳地区でイン・リーダー研修を行いました。例年、宿泊研修を行っていましたが、今年は感染症拡大防止の観点から、屋外の一日研修となりました。参加者は小学生12名、中学生4名(内ジュニア・リーダー3名)、職員7名で活動しました。活動内容は、冠岳(西岳)登山・KYT(危険予知トレーニング)・ニュースポーツ体験・講話です。



スタート地点と徐福像

梅雨入りしたものの初夏を思わせる快晴の中、阿弥陀堂や天狗岩を見学しながら標高516メートルの西岳頂上を目指しました。

途中、草花を見たり、鳥の鳴き声を聞いたりして声をかけ合いながら一時間半ほどで登頂し、頂上では東シナ海と市内を一望できる景色を堪能しました。その後、歩いて冠岳交流センターまで移動し、午後からは登山についてKYTを行い、危険な場所や行動をみんなで共有しました。

ニュースポーツ体験では3種類の競技を取り入れ、今後、各単位子ども会等で指導できるように班ごとに全てを全員体験しました。最後の研修メニューでは、ジュニア・リーダークラブ「チェリーブロッサム」の活動紹介と子ども会活動についての講話を行いました。参加者の感想として、「違う学校の人と友達になれた。」「みんながいたから頑張ることができた。」というような声が聞かれました。

自分で考え行動する

今回は、チェリーブロッサムで参加した子どもたちに、班長として班をまとめてもらいました。まだ加入して間もなかったので心配でしたが、人数確認や資料の配布、班員への気配り、伝達事項など事務局の指示に対して自分で考え、行動していました。修了式の時には、チェリーブロッサムに加入したいと手を挙げる参加者も出るという嬉しい反応もありました。

一日研修で

したが、参加者が様々な体験を通して、変わるきっかけを作ることができたのではないかと思います。



登山風景

歴史人物探訪

幕末を駆けた夢中人 小松帯刀

たてわき

日置市教育委員会

令和2年は、幕末の薩摩藩家老小松帯刀没後150年の節目の年です。小松は天保6年(1835年)に喜入領主肝付兼善の子尚五郎として鹿児島城下で生まれました。

何事も極めた夢中人

幼年から師を仰いで学問や和歌を学び、読書にも熱中したようです。



小松帯刀像

武術では、現流に精を出し、また、馬術の腕前は、後に

京都で評判になるほどでした。非常に物事に熱中する性格だったようで、薩摩琵琶にも夢中になりすぎたため、執事からたしなめられ、以後、琵琶を絶ったというエピソードが伝わっています。本市東市来町美山には、小松が薩摩焼陶工の第12代沈壽官に贈ったとされる薩摩琵琶が伝わっています。琵琶を絶ってからの小松は、「四方の名士」と交流するようになったといえます。

こうした物事に真剣に取り組み、人々との交流を重視した小松の幼少期は、幕末の難しい政局に臨んでいく上での糧となったようです。

安政3年(1856年)、小松家

のお近と結婚。同家の婿養子となつて家督を継承後、小松帯刀(清廉)と名乗りまします。小松家は、江戸時代、領主として吉利(本市日吉町)を治める一方、薩摩藩の要職を歴任した家系です。吉利領主となつて早々、

領内で郷士の派閥抗争がありましたが、小松はこれをよく治めたことから当地では名君として迎えられたとされます。

改革を推進

文久2年(1862年)に28歳の若さで家老に抜擢され、薩長同盟の締結、大政奉還などで活躍します。これら維新事業の功績は、小松の人的交流による功績といつても過言ではありません。後に薩長同盟で共に尽力する坂本龍馬が寺田屋で襲撃された際は、龍馬を保護し、薩摩の小松家に寄宿させ、霧島温泉で療養させました。また、15代將軍徳川慶喜も小松に厚い信頼を寄せ、後の大政奉還は二人の関係性により実現したとも言われています。

維新後の明治元年(1868年)、小松は、明治政府の参与・外国事務掛・総裁局顧問、さらに外国官副知事等になり、外交面で活躍しました。翌年病氣のため辞官。同3年7月18日、36歳の若さで惜しまれつつ、大阪で亡くなりました。吉利園林寺跡の小松の墓には、現在でも参詣者が絶えません。

遠隔教育システムで学習支援

三島村教育委員会

三島村の学校は、文科省の「遠隔教育システム」のモデル校として指定されており、子どもたちは普段からタブレット端末を使った学習に慣れ親しんでいます。

そこで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、この休校中もネットを通じて自宅と学校を結んだ遠隔学習にチャレンジしました。タブレットを使い、児童生徒が課題を解いて学校にいる教師へ送信、教師は答え合わせや間違った箇所へコメントを付けて彼らへ返信。

通常の授業とは違う学習形態ですが、自宅でタブレットや専用のペンを使って課題を解くのは新鮮です。間違えた問題をタブレット上でやり取りができます。普段から授業で慣れ親しんだタブレットが、このような形でも使えるという新しい発見がありました。

離島の小規模校

だからこそできた

学習支援の一つ。

これからいろいろな場面で積極的

に活用することで

「遠隔教育システ

ム」の新たな可能性を追求し、全国の

モデルとなる活動を展開していきたく



タブレット端末での学習

フットコ 福德神がやってきた

平島子ども会(十島村)

カセダウチ(福德神(フットコジ))がやってきた。1月8日(旧暦12月14日)の夕方6時。平島に福德神がやってきました。

カセダウチとは、すがさをかぶり、ビロウの葉を背負った福德神が家々を回り五穀豊穡と無病息災を願う行事です。ヘグロ(墨)を塗られると病気をしないといわれています。子どもは、福德神に水をかけることができます。

この日のために作戦を立てた子どもたちは、バケツに水を入れ、水鉄砲や水風船などを構えていました。家から出てきた福德神に水をかけ、追いかけてきた福德神から二手に分かれ、逃げ回りました。子どもの人数が増えた分、知恵が集まり連携が取れていたようです。昨年は顔中墨だらけになっていた子が、最後まで逃げ切るなど子どもたちの作戦勝ちでした。

早くも、子どもたちは、来年に向けての反省会や作戦会議を立てているようです。

来年が楽しみです。



ALTとフットコ神

日置地区地域女性団体連絡協議会研修会

《兼 鹿児島地区人権教育ブロック別指導者研修会》



キラリ輝く「いのち」にありがとう！
～よい子・わるい子・ふつうの子の世界～

6月23日(火)、いちき串木野市市来地域公民館で開催し、両市から約40人の参加がありました。

講師は、鹿児島中央公民館の常深透館長です。

常深氏は県教育庁人権同和教育課長や鹿児島市立長田中学校長等を歴任されています。



講師の常深氏

- ❖ 自分を振り返るいい機会になった。孫育てで悩む日々。話を聞いて考えさせられることばかり。リフレミングの大切さを肝に銘じた。
- ❖ こんなに楽しい人権学習は初めて。音楽を取り入れての講演とても良かった。何度でも聞きたい。
- ❖ 改めて「命」が繋がっていることを考えさせられた。
- ❖ 「人権」という一見堅く捉えられがちな内容が、笑いや涙を通してすつと身体に入っていく体験をすることができた。

新型コロナウイルス

「いのち」の意味や「きらり輝く」ということ、そして「よい子、わるい子、ふつうの子」の話では、リフレミングすることで子どもの見方が変わるなど分かりやすく御講演いただきました。

常深氏の楽しくユーモア溢れるトークと場面場面での効果的なBGMに、参加者は最初から最後まで引き込まれていきました。

参加者一人一人が自らの人権意識・人権感覚と照らし合わせつつ、心揺り動かされた様子が、研修後の感想の随所から伝わってきました。



講演の様子

本研修会で高まった人権課題への意識が各地域女性連絡協議会の学習に拡がり、多くの方の人権意識の高揚につながることを期待します。

鹿児島地区社会教育委員及び社会教育担当者等研修会

生涯学習推進における社会教育委員、社会教育担当者の役割について研修を深め、お互いの資質の向上を図ることを目的として6月16日(火)、日置市中央公民館で開催しました。「三密」回避対策を講じ、2市2村から52人の参加がありました。

鹿児島らしい連携・協働へ

「次代を担う子どもたちの成長に向けた、鹿児島らしい連携・協働の在り方について」、県教育庁社会教育課の大田高行主任社会教育主事兼係長が講義をされました。



講師の大田氏

連携・協働を推進するために「めざす子ども像・子ども観を明確化し、地域と学校が共有すること」、「活動に次代を担う子どもを地域全体で守り・育む視点を盛り込む」、そして「持続可能な体制の構築を図る」等、具体例を示しながらお話されました。

開かれ、つながる社会教育へ

二市の社会教育の取組を日置市の東社会教育課参事と、いちき串木野市の五反田社会教育課長補佐が発表しました。短い時間でしたが、参加者からは、「他地域での取組を知ることができた、ニーズと課題解決と学びが結

びついている施策が多い」等の感想がありました。新たな社会教育の方向性が見えてきたのではないのでしょうか。

地域の社会教育を支えるために

分科会では、10班に分かれて「青少年の健全育成及び生涯学習社会実現を目指す社会教育委員の役割はどうあればよいか」のテーマで研究協議を深めました。ある班では、「郷土愛と地域のつながりを大切にしたい子どもに育ってほしい」という思いを共有し、地域での郷土愛を育む取組と学校での郷土教育の連携などについて意見が出されました。



分科会の様子

研修会の感想

参加者からは「地域や立場の異なる方々の意見は新鮮で、今までとは違う視点で子どもや地域を見直すよい機会となった。」「関わっている人たちの熱い思いを共有できた。」「との感想があり、充実した研修会になりました。

編集後記

コロナ禍の影響で、夏休みを縮小する学校もあるようです。一日でも早く新型コロナウイルスが収束することを願っています。さて、今年度も社会教育関係の情報を発信していきます。よろしくお願ひします。(事務局 田中)